



# すたかか

編集・発行 苅田町青少年育成町民会議 ☎093・434・9838

## SNSの危険性を 学びました



青少年のネット環境  
に関する講演会

令和四年六月二十四日、苅田町中央公民館で、「SNSの危険性について」と題した講演会を開催しました。講師は福岡県警飯塚少年サポートセンター係長の石川弘憲氏。現場で、実際に青少年をサポートしている体験を交えて、SNSが犯罪やいじめの温床になっている実態を語っていただきました。

今年になってから、強盗殺人をめぐる闇バイトの問題、飲食店の「いたずら」をSNSに投稿して拡散するといった重大な問題が



発生しています。

現在の若者はスマートフォンが身近にありすぎるためか、気軽な気持ちで応募や投稿をしているようですが、大きな犯罪に巻き込まれたり、自ら犯罪者になったりする怖さがあります。ちょっとした心によって、一生を棒に振ることもあるのです。

町民会議では、SNSの危険性に関する啓発を重点項目とし、令和五年度も講演会を開催していきたいと考えています。

## 手書きの温かさを 見直しました



年賀状の書き方・  
楽しみ方講座

スマートフォンやSNSなどの普及によるデジタル化の進展で、文字を手書きする機会が激減しました。例えば、年賀のあいさつも、年賀状ではなく、メールなどを送ることで済ますことが増えてきたようです。

しかし、手書きの文字には心を伝える温かさがあることを見直そうと、「年賀状の書き方・楽しみ



方講座」を開催しました。講師は、一般社団法人手紙文化振興協会の田中美和さん。

実際に葉書を使って実習することとで、手書きの言葉を添えることで心を伝えることができることを学びました。何よりも日本語の奥ゆかしさや情緒を感じることができました。

## 齋藤さんが優秀賞受賞



## 少年の主張福岡県大会

昨年度、苅田町で行われる予定だった少年の主張福岡県大会は新型コロナウイルスの感染者増加のため中止となりましたが、今年度は、九月四日、筑紫野市で、入場制限をとりながらも、実施することができ、町民会議からも役員五名が傍聴に出かけました。

苅田町からは新津中学校3年の齋藤みのりさんが登壇しました。



審査の結果、優秀賞を獲得しました。齋藤さんの主張は3ページに掲載しています。

## オアシス人形劇

## 3年ぶりに再開しました



新型コロナウイルス感染のため、二年間中止していましたがオアシス啓発人形劇の公演が一部再開され、九月から十一月の間に七つの園で実施されました。来年度は全園で実施したいですね。（写真は苅田みどり幼稚園の様子）

家庭の日・オアシス作品で  
2名が優秀賞獲得

福岡県青少年育成県民会議が募集した令和四年度家庭の日・オアシス運動作品に、苅田町からポスターの部44点、作文の部154点の応募があり、ポスターの部で馬場小1年生の古川美唯菜さんと同5年の山本亜美さんが優秀賞に選ばれました。（写真は上が古川さん、下が山本さんの作品）

●ポスターの部 ▽優秀賞 古川美唯菜（馬場小1年）、山本亜美（馬場小5年）▽奨励賞 渡邊永磨（馬場小4年）、古野朝日（馬場小4年）、丸山爽太（馬場小5年）  
●作文の部 ▽奨励賞 木下晴仁（苅田中3年）



## 橘家文太さんの

## トーク&amp;落語会実施



九月十六日、落語家の橘家文太さんを迎えて、三原文化会館でトーク&落語の会を開きました。



落語家と言えば、東京が関西で活動するのが当たり前ですが、文太さんは、敢えてふるさとの北九州でプロ活動が続けています。それも、落語に出会ったのが二十七歳。若いころはヤンチャだった青年が日本の古典芸能と出会うことで、夢を見つけました。地域での活動が評価されて西日本文化賞を受賞しています。当日は、生い立ちから師匠（橘家文蔵）との出会いなどを話した後、「時そば」「死神」の落語を披露してくれました。

ちから師匠（橘家文蔵）との出会いなどを話した後、「時そば」「死神」の落語を披露してくれました。



## 少年の主張福岡県大会優秀作品

## 「できること」「できないこと」

新津中学校3年 齋藤みのり

「みなさんは「サイニングストア」という言葉を聞いたことがありますか。「サイニングストア」の「サイニング」とは「手話」のことで、手話が共通言語で聴覚に障がいのある人と聴覚に障がいのない人が共に働くお店のことです。私は「サイニングストア」のことを新聞の記事で知りました。記事は、障がいのある店員のみで運営するコンビニが大阪で開業することを取り上げたものでした。コンビニは接客がおもな仕事なのにどんなふうに仕事をするのだろうと疑問に思いました。筆談用の道具や指さしシートなどを使い、接客や品出し、商品の発注まで全て行うそうです。

他にも同じようなお店があるのではと思い、インターネットで調べてみると、スターバックスコヒーがあるとわかりました。2020年、スターバックス初の「サイニングストア」の店



舗は22名の店員が聴覚に障がいがあり、聞こえるパートナーが6名でスタートしたそうです。「手話」と指さし、振動するタイマー、デジタルサイネージという電子ディスプレイボードを使用するなどさまざまな工夫を取り入れ、「できない」ではなく「できる」に変えていっているというこの記事を読んだ、私は、はっと気づかされました。「できない」と決めつけてはいなかったのだろうか。

また、「農業」の「農」と「福祉」の「福」を組み合わせた農福祉という取り組みがあることを母が教えてくれました。この取り組みは障がいのある方や、社会の支援を必要とする方が農業という仕事を通して、自身や生きがいというもの、社会参画を実現していくというのだそうです。担い手不足や高齢化が進む農業分野におい

て、新たな働き手の確保にもつながるという面もあるようです。一人ひとり「できること」は違っても、その人が「できること」を「できる範囲」でやっていくという取り組みはとても大切なことではないでしょうか。一人ひとりが大切にされるということにつながると思うからです。

私が障がいある人について考えるようになったきっかけの一つは、私の祖父です。もう三十年以上も経ちますが、祖父は脳梗塞で倒れ、右半身が麻痺してしまいました。そのため自分で思うように右半身の体を動かすことができません。それでも祖父は、杖をつけば歩くことができます。それだけではありません。改造した自動車を自由のきく左手を使って運転することができのです。私たちが訪ねてくれたり、祖母といっしょに買い物に出かけたりしています。身近な私たちがほんの少し手助けすることで「できること」が増えます。祖父を見ていて「できないこと」を「できること」に変えることはそんなに難しいことではないかもしれないと思うようになりました。

障がいのあるなしに関わらず、人は一人ひとり個性があり、違いがあります。違いがあるということとは、得意、不得意があり、「できること」「できないこと」があるということです。その人、個人にあった「できること」を見つけなければよいのではないのでしょうか。そのためには、お互いが何を必要としているか、「知る」こと。個人に対する理解が大切です。まずは、自分の周りを見渡してみよう。

今、私は中学生で自分の半径5キロメートルくらいの狭い世界しか知りません。ですが、現代では、あらゆる情報をインターネットなどを通じて得ることができるようになっています。いろいろな取り組みについても知ることができのです。障がいのある人もない人も、支援を必要としている人も、していない人も、一緒に「できること」を考え、みんなが社会を創っていくのだという考えが当たり前になつていくことが今こそ求められているのではないのでしょうか。

視野を広げ、広い世界について知り、私にできることから始めてみようと思います。



## 宮本武蔵の「二刀流」って

### どんな意味があるの？



明るい話題の少ない昨今、多くの人たちが希望をもって応援しているのが、大谷翔平選手だと思います。投手と打者の「二刀流」は、

これまでの野球の常識を超えています。一昨年のユーキャン新語・流行語大賞が「リアル二刀流 ショータイム」だったことは記憶に新しいですが、野球用語としての「二刀流」が歴史に刻まれたことになりましたね。

さて、「二刀流」の元祖といえば、宮本武蔵です。小倉城天守閣前に宮本武蔵と佐々木小次郎が対決する銅像が建っていますが、武蔵は確かに二本の刀を持っています。（刀の単位は正確には振ですが、ここでは本に統一します）

慶長十七年（一六一二）、宮本武蔵は佐々木小次郎と関門海峡に浮かぶ巖流島（舟島）で決闘して勝っています。巖流島には、武蔵と小次郎が対決する銅像がありま

すが、この武蔵は二本の刀を持つてはいません。一本の木刀を振り上げています。

決闘から四十二年後（武蔵の死後九年後）、武蔵の養子・伊織（小倉藩家老）が手向山（北九州市小倉北区）に顕彰碑を建立します。その碑文には、武蔵は木刀の一撃で小次郎を倒したと刻まれています。

では、「二刀流」とは何のことでしょうか。武蔵の自著『五輪書』（ごりんのしよ）には次のように書いています。

「二命を捨てる時は、道具を残さず役にたてたきもの也。道具を役にたてず、腰に納めて死する事、本意に有べからず」（魚住孝至校注『定本五輪書』新人物往来社）

つまり、せつかく腰に二本の刀を差しているのに、それを使わずに負けるのは本意ではない、ということだと思います。

この「道具」を「能力」や「技術」と置き換えてみれば、よくわかると思います。自分の夢を実現するために、自分の能力や技術を使い切っていますか、という問いなのですね。壁にぶつかり、うまくいかないとき、他にやれることはないのか、利用できることはないのか、を冷静に考えてみようということです。使えるものを使わずに諦めてしまったら、後悔しますよ、と武蔵は呼びかけているのです。

宮本武蔵は決して高尚な哲学を語る人ではなく、リアリズムに徹した人です。そこが、『五輪書』が時代を超えて、今でも読まれ続けている理由ではないでしょうか。

（かんだ郷土史研究会・小野剛史）



## 令和四年度事業報告

|           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 4月15日     | 理事会                         |
| 4月22日     | 総会                          |
| 5月16日     | かんだ港まつり花火大会翌日清掃活動参加         |
| 6月24日     | 青少年のネット環境に関する講演会            |
| 7月6日      | オアシス啓発人形劇公演（以後11月9日まで7園で実施） |
| 7月20日     | 夜間防犯パトロール                   |
| 7月29日     | 有害図書要望書提出                   |
| 8月19日     | 役員会                         |
| 9月4日      | 少年の主張福岡県大会傍聴                |
| 9月8日      | 家庭の日・オアシス運動作品提出             |
| 9月16日     | 橘家文太トーク&落語の会                |
| 10月9日     | 子どもフェスティバル・ウォークラリー大会参加賞配布   |
| 11月11日    | 有害図書要望書提出                   |
| 11月27日    | 親子ふれあい講座                    |
| 12月9日     | 年賀状の書き方・楽しみ方講座              |
| 令和5年2月21日 | スマホの使い方啓発リーフレット配布<br>役員会    |